



モーリシャスと日本の若者による wakashio 座礁事故への協働プロジェクト始動！

- 前例なし！モーリシャスと日本の若者が協働プロジェクトを始動
- 重油流出事故に対する現地の若者の「生の声」を届けるオンラインイベントを開催
- 「事故を風化させない」自然を守る若者の決意を今後も継続的に発信予定

■協働プロジェクトの概要

2020年6月、WIN WIN Sustainability Youth Award 2020 に世界のトップ20 に選ばれた COND と Sov Lanatir が、ノミネートされた団体のみが参加出来るプログラムにて偶然出会い、COND から声をかけ、2団体間の協働プロジェクトが発足しました。モーリシャスでの重油流出事故から4ヶ月が経ち、日本メディアでの報道が減り、人々の関心も低下してきているように感じられます。しかし、重油の影響を受けたモーリシャスの生態系は回復に20年以上かかるとされており、地元の人の生活や経済にも負担をかけています。そこで、モーリシャスの若者団体と協働し、事故やその後の影響について発信することで、事故を風化させず、考えるきっかけとなるようにこのプロジェクトを始めました。プロジェクトでは、「生の声」の「発信」に力を入れており、現地の若者に対するインタビュー動画の作成やオンラインイベントの実施を行っています。長期的な協働を視野に入れ、今後も継続して発信を行っていきます。

■イベントの概要

2月20日(土)に「COND×Sov Lanatir モーリシャスユース対談～モーリシャス座礁事故のその後～」を開催しました。本イベントは、2020年7月にモーリシャス沖で起こったわかしお座礁重油流出事故に対し、モーリシャスと日本の若者が事故を風化させないことを目的に立ち上げたプロジェクトのキックオフイベントとして実施しました。このようなモーリシャスと日本の若者同士が協働して行うイベントやプロジェクトは前例がなく、両国の若者による「自然や未来を守りたい」という想いから実現したものとなりました。



今回のイベントでは、日本人を対象に、多くの方にモーリシャス重油事故の「現状」や現地の若者の「生の声」を知ってもらえるよう、現地の若者団体 Sovlanatir から2人のメンバーをゲストに招き、事故当時の様子や最前での事故の対応に関する説明、質疑応答やパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、長期的な協働を進めるためにはどうしたら良いかをテーマに議論を実施しました。それぞれの発言は下記の通りです。

<Sov Lanatir(モーリシャス)側の発言>

- ・ユースの良さは、スピード感と他世代間交流。意思決定が早いことと、上の世代への働きかけや下の世代への教育など、両方向へのアプローチができることが強み。こうした、幅広い世代や所属の人々とスムーズに関われることで、常に広い視野を維持し、創造的なアイデアを生み出すことができると考えている(Niha,19)。
- ・日本とモーリシャスは遠く離れているが、この事故を風化させないための情報収集や普及啓発は、継続的な支援の大きな要になる。引き続き、日本人たちに協力してほしいと思う(Niha,19)。
- ・日本のユースが協働してくれることはとても励みになっているし、協働を申し出てくれて嬉しかった。当時は、目の前の事故対応に精いっぱい、他国との協働という発想がなかった。日本のユースから声をかけてきてくれて、問題意識を持ってきてくれていることが伝わってきたし、とても勇気づけられた。(Nityam,22)。
- ・事故に関するだけでなく、「生物多様性」や「教育」、「他世代間交流」など、私たちは共通の目的を持っている。他の活動でも長期的に協力していきたい(Niha,19 and Nityam,22)。
- ・コロナが収束したら、実際に現地を訪れて、モーリシャスの豊かな自然を感じてほしい。スタディーツアーなどを通して、海に行き、いかに自然が身近なものかを体感してもらえそうな協働企画も将来的にはやっていけたらいいなと思う(Niha,19)。

<COND(日本)側の発言>

- ・ユース団体の良いところは、バイタリティがあり、フットワークが軽い人が多いように感じる。そのため2つの団体で協働していく、となったときに、すごく簡単につながっていくことができるのではないかと考えている(大野,21)。
- ・スピード感を持って大胆な計画にチャレンジできることはユースの強みだと思う(矢動丸,27)。
- ・ユースは情報収集と発信の両端でユースならではの特色があり、媒体として个性的かつ有力であると思っている。だから、ユースが連携して海外での情報を受け入れて発信するようなユースの「情報ネットワーク」みたいなものを確立して発信するということは、1つの重要な協働なのではないかと考えている(大野,21)。
- ・SovLanatir の2人の話を聞き、ユースが連携し、大衆に向けた発信を担うことは1つの「重要な協働」になることを確信できた(矢動丸,27)。
- ・私たちユース世代は自分たちの上の世代と下の世代のちょうど真ん中に位置しているため、どちらもつなぐことができる強みがある。なので、どちらも巻き込むことができる。ゆくゆくは世代間対話のようなこともしていくことで、もっと多くの人を主体的に巻き込んでいく場をつくりたいし、それができるのが COND の強み。そのような方向性も考えていきたい(矢動丸,27)。
- ・このような事故が起きないことが最も望ましいが、仮に起きてしまった際にもユースが率先して迅速な対応ができるようなノウハウが世界中で共有された社会にしていきたい(大野,21)。
- ・協働プロジェクトのきっかけは重油流出事故だったが、将来的に、重油流出事故以外にも協働出来ることはあるように思う。Sovlanatir と長期的に良い関係を築いていきたい。モーリシャスと日本の自然環境や生息植物、文化等で異なる点が多いと思うため、お互いの情報・意見交換や経験の

共有をしていけたら、と思っている(矢動丸,27)。

・人に関心を持ってもらうということは、人の心を動かす、人の認識を変えるという働きかけが必要になってくるがとても難しい。「環境分野の重要性を当たり前にしたい」と考える COND としては、そうした日本と遠く離れた国の若者が恒常的に自然保護に向けて何かを一緒にやっている、という、一般の人からしたらある種非日常的であろうことを通して、多くの人に良い意味での影響を与えていけることが理想だと思う。利害関係のない若者同士が、一緒にやっていきたい、という気持ちだけでプロジェクトを行っていくことは、多くの一般の方の心を動かせる可能性もあるのかもしれない(矢動丸,27)。

■ 主催団体について

● Sov Lanatire (ソラナチア)

Sov Lanatir は、モーリシャスの大学生が中心となって結成された環境保護団体です。理系・文系を問わず様々な学問を専攻する学生が所属し、植物学、動物学、芸術学、STEM 教育、緑の政治学など、多様なアプローチで学際的に環境保全に取り組んでいます。

<https://www.facebook.com/SovLanatir/>



● Change Our Next Decade(COND)

「Change Our Next Decade(COND)」は、2020年の第15回生物多様性条約締約国会議(CBD-COP15)に向けてアクションを起こすため、2019年に設立された日本のユース団体です。日本全国から15歳～30歳のユースが40名程度集まり、活動しています。活動を行う背景には、止まらない生物多様性の損失があります。このままでは、ユース(若者)の生きる未来は脅かされるばかりです。IUCN-Jをはじめとする様々なステークホルダーと協働し、「生物多様性の分野に関わるユースを増加させ、環境分野の重要性を認識することが当たり前になり、人と自然がより良い関係で共生できる社会を構築する」ことをビジョンに掲げ、地域レベルから国際レベルまで、幅広く事業を展開しています。<https://condx.jp/>



■ 参考情報

● イベントのアーカイブ動画

https://youtu.be/_v9PPLWgcgE

● イベントの参加者募集プレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000090.000027546.html>

● SovLanatir のメンバーにインタビューを行った動画はこちら

<https://youtu.be/6F3VrFZZtnc>

■ 本リリースに関するお問合せ

Change Our Next Decade

モーリシャス協働プロジェクト担当：小玉（こだま）・矢動丸（やどうまる）

secretariat.cond@gmail.com